838
297
116
部

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

平姓

服部

本國伊賀

紋 巴輪内大谷

服部六郎保定十世

掃部貞類後裔

貞信　服部別當

宇治田原氏服大明神別當而數世居住焉

天正十年壬午六月明智反逆被

大神君寄宇治田原山口家藏郎刀或御膳而入御于

貞信邸貞信拜謝之率家從與山口傷者共至江州信樂

塙路賊色充滿而以貞信之知多無從者多羅尾四郎

根岸信輔氏寄贈

昭和 寄贈 帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

其子光敏光敏病於九位當館而奔走
大神君賜米國次服指於負信上州還 御追々令奉仕
大神君賜宋地百六十石
天正十九年辛卯朱印賜百人十石

負富 服部久兵衛

廿

慶長五年庚子部屋住拜
大神君為大御番 杉平右衛門見弁組賜二百俵大坂役供奉
寛永四年丁卯為大御番組頭 同十年癸酉三九上役
幕命而栖岸院号德本院殿清誉淨善居士

負常 服部久次郎 久右衛門 備後守

廿

生涯
元和八年壬戌部屋住為大御番 阿部右馬助組 別賜
二百俵 寛永十年癸酉加役二百石 凡四百石
慶安元年戊子六月為同組頭 承應元年壬辰十二月二廿二加
二百俵 凡賜六百石 寛文二年壬寅八月十九為 材木裏所
叙諸大夫改備後守 加秩千石 合賜千六百石

事

寛永八年辛未四月十三歿 御所
長福寺号心境院殿光誉妙圓
大姉

延寶二年[illegible]六　仍為講爲寄合同二年[illegible]
致仕賜三百俵

服部半二郎
昌
寛永十年[illegible]三月廿五歿　芳垣寺院
号德本院殿清巖清善

服部庄三郎　大膳亮
貞世
女
元和二年[illegible]生
慶安　年　爲　神田御殿御小納戸　賜三百五十俵
寛文元年[illegible]加給賜四百[illegible]

服部三十郎
光
女　川井刑部重長女
天正十七年[illegible]生　遠州
慶長二十年[illegible]大坂役爲御書院番山伯者守組
同年五七天王寺而戰死年廿七歳
子　院無關心鉄居士

服部三九郎　中
保俊
女同
妻　花井遠江守
直妻　水野[illegible]太郎作清定女
元和三年[illegible]継父遺跡二千五十石外合知[illegible]総五百石

旅保久
同八年庚辰御花畑御番　寛永二年乙丑賜粮所御
同三年丙寅供番上京　同八年辛未二十二為御徒頭
同十年癸酉十二月廿七加賜伊州巨摩郡五百石
同十一年甲戌供番上京　同十二年乙亥十月為御小性組
與頭　同十三年丁子日光山供番　同十九年壬午九月為
遠州新居御関所奉行　拝新規無少六騎　同心二十人
同廿年癸未六月六加秩千石　上總夷隅郡叢熊邑
合十万石　相木邑加寄邑凡千五百石　甲州巨摩郡
監後邑　金田邑　叢崎邑五百石加秩千石合三千五百石
賜遠州敷智郡大洼山崎伊佐地少人見之四邑
同郡神谷邑内長上郡下石田邑共十石田合七邑
慶安四年辛卯六七　新居死年　寿湖寺

貞　服部久六郎　久右衛門

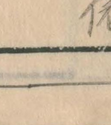
妻　戸田土佐守　女

寛永十四年丁丑生　戸
康應三年甲子二廿五　部屋住為御小性組　翌年死遺骸遠傳
明暦二年丙申十二廿五賜三百俵
延宝三年乙卯五十六　家督千二百石外合知高百石　於江
又孝門貞豊　同九年壬午　正十一諸州巡見使
同年十二廿日　為御目付
天和三年癸亥七三依上總介忠輝於配所而卒去　故伊州勝行
換光御用　同九三日　為下田奉行　無程御暇　同年十二廿五

参議同貞享元年四月御暇同二年正月十五参勤献
物元禄三年庚午八月七日病死

貞豊　服部又右衛門
　　如同

生江戸
萬治二年己亥十四新規為大御番池田帯刀組賜二百俵
寛文二壬寅年三月二日於番御暇



延宝三年乙卯五月六日知二百石賜四百石
同四甲辰九月十八日同組頭同年十二月六日賜二百俵石
賜六百石　天和二年壬戌　没年　寿高田法華寺

貞徳　服部又右衛門
　　如

生江戸
天和二年壬戌七月三日六百石為小普請同組所没
元禄十三年庚辰正月九日大御番代越中庵
宝永元年甲申九月八日没年　寿同寺

女子　飯田惣左衛門　直恒妻

常教　服部宋女

生江戸

宝永元年甲申十二月廿日六歳目ニ而茅間御仙老中列坐
稲葉丹後守傳ヘ為小普請保四内膳正銀同十枚
拝謝ス献銀長代享保元年丙申三月十六日伊豆竜寺門
為大御番稲垣長門守殿
同十四年己酉九月廿日殁年　寿同年

常時　服部久五郎　高兄常教
同　養子

常時　服部久五郎　又左衛門
實父

妻飯田惣左衛門道恒女
享保十五年庚戌十月廿日殁

生江戸
享保十四年己酉十二月廿日六歳目ニ而茅間御仙老中列坐
酒井讃岐守忠恒為小普請保四内膳正銀同十枚
同十五年庚戌四月廿日拝謝ス献銀長代同年十二月廿七日
大御番
明和七年庚寅閏六月十七日老辞賜金二枚為小普請

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某　服部
奴飯田惣左衛門
大竹傳左衛門

正常　婿
宝暦八年戊寅十一月五日　鷲院番　大竹源太郎正吳養子

某　常編　服部鷲五郎又兵衛号也
婿

生母
宝暦二年壬申十二月七日　屋住為人御番
同十三年癸未五月廿六日　新御番酒井左衛門尉
明和八年辛卯十月　先父病歿　寄合番

女子
婿

大周院殿　大周院殿　忠五郎

常　服部文蔵
婿

生母
妻　高番中根権六郎

常岑　服部富蔵
奴中根権六郎

生母
明和八年辛卯十二月為祖父常時婚孫承祖
安永五年丙申八五歳相模国鎌倉郡御家人列坐
右近將監傳之為小事活石何之配
天明元年辛丑十九為大少

女子
母同　為兄常房養子

貞田服部駒吉
常房　実同姓備後守　二男

又右衛門

妻養父富戸藏常房養子

生母
文化七年庚申三四部屋住為大御番　十番
文政
高六百石内九十石六斗六升者高四百石内九十石六斗六升者高六百石
武州久良岐郡　百九十石九斗一升者高
同郡成瀬村　二百石九斗一升者高

女子
実妹

養子　又右衛門貞田

服部久五郎
母同 [illegible]

女子
[illegible]

服部久三郎　久五郎　久兵衛門

母

生江戸
延宝九年辛酉二月廿日　御目見被仰付
天和三年癸亥九月廿五日　部屋住為御小性組
賜三百俵　元禄七年甲戌十二月朔日　千百石拝領
三百石　於節九十郎同八年乙亥二月十八日　御礼金拝領
同十一年戊寅十五日　新規為才所大清目付
宝永二年乙酉二十五日　為御徒頭
同四年丁亥十一月病辞　為寄合

享保八年参勤　　致

貞　　服部九十郎

妻

生母

天和二年庚戌十一月廿五日　御見馬目

元禄七年甲戌十二月十二日知三百俵

同十六癸未六月十五日　大御番　御書院番

貞　　服部九十郎

妻

生母　　妻　山本邑右衛門勝豫伯母

享保　　年　　歩目三百石為大御番

元文元年丙辰十二月廿三日　為留守番　馬乗

延享元年甲子九月廿一日　為病状　為小普請

宝暦五年乙亥九月六日致仕

貞　　服部十次郎　十石御門

妻

生母

宝暦五年乙亥九月六歳相模三百石菊間御老中列坐

伯耆守傳之為十歳相川能登守養子

同七年丁丑七月十六為大御番青山義隆寺組改十番

同十七年壬辰十二月十三出羽守為小姓

貞

服部頼母

実

実

誕歳七月十日

生母

享保八年癸卯十月九歳目于

夏菊間御老中列坐

左近將監傳之為小姓能登守養子

同年十二月十二誕

之就役

元文二年丁巳十二月四為御小性組依頼

左兵衛尉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

平姓

服部　本國伊賀　紋車輪内二笹

服部石見守正頼
四男

保正　服部源四郎　源兵衛
妻

天文四年乙未生誕刊
永禄元年戊午始孝仕
大神君同九年丙寅勝三刊賀茂郡内六十貫或三十貫
元亨三年癸亥十二月二十三日伊賀戦死年三十八

保成　服部源四郎　源兵衛
生三刊

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

若年寿仕
大神君場之刑加茂郡内三十貫
天正十二年甲申尾州犬山城攻大手口而戦死

保次　服部源兵衛
毒加々介備前守　廿
生之刑
慶長年寿仕
大神君
寛永七年庚午七月為大御番皆川山城守組
明暦元年乙未廿三歳
与照月院殿我蒼道珍居士　号罌龍昌寺

保勝　福永安右衛門　居城刑
母
生之刑
慶安二年己丑九十歳寺龍昌寺了膳蒼淨居士

勝國　福永傳兵衛　勝元　福永傳次郎
元禄十年丁丑七十五歳
了縁蒼了因居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

保定　服部土郎右衛門　安左衛門

妻　同

生伊勢

元和九年癸亥六組新規小十人組稲垣藤七郎組

賜百俵　寛永九年壬申　加百俵

寛永十八年辛巳十二月六日同組頭加百俵　正保三年丙戌十二月

万治二年己亥五月九日御目見足軽行

延宝二年甲寅四月二日病躁為小普請

貞享三年丙寅九月廿二日致事　寿龍昌寺

号超勝院殿信誉浄仰居士

保昭　服部十大夫　安左衛門

妻

生江戸

寛文二年壬寅十一月十九日部屋住為大御番本多越中守組

賜二百俵　延宝元年癸丑十二月一日元方御納戸

貞享二年丙寅十二月十日三百俵　元禄八年乙亥九月十一日

拝方御金奉行　宝永二年丙戌八月八日致事　寿同寺

号覚了院殿誠誉玄底居士

女子　即左室　井出五左衛門　正良妻

保利　服部十大夫　甚五左衛門

妻

生江戸

延宝六年戊午三月六日部屋住大御番為武田越前守組賜

二百俵

保苗　服部源五郎

田

生江戸　御目見

貞享元年甲子五十七　屋敷為大御番酒井紀伊守在

元禄六年癸酉十二月九高　御番頭

賜二百俵　宝永五年戊子閏正五月十日三百俵　菊門番後中

大久保加賀守傳之事　保六年辛丑二月十一為　大坂御鉄炮

孝行　同年　四月八大坂御暇

同九年丙辰八月十七歿　葬同寺与是性院殿長誉月相居士

妻福玉　女

元禄十六年癸卯十九歿　寺同

うら　慈峰院殿妙誉[illegible]

保教　服部友之郎　安芳門

男

妻武川孫七郎　猪夢女

元文元年辛未八月七歿　寺同

与宗月院殿心誉自照大姉

再妻久留十郎大夫　女

宝暦五年乙亥十廿二歿　年六十六

法号与十蘭冊相院殿　酔誉玉泉

大姉

生江戸　御目見

享保六年辛丑四月八日

同九年甲辰十一月十四歿　月三百俵　芙蓉御老中列坐　本野

知是子傳之為書治松野御兵衛尉施同事
同十二年丁未十三歳為大御番
明和四年丁亥十一月九大坂加役
子頻性院殿著後宮居士

某 服部作右衛門
保重 服部十大夫
母

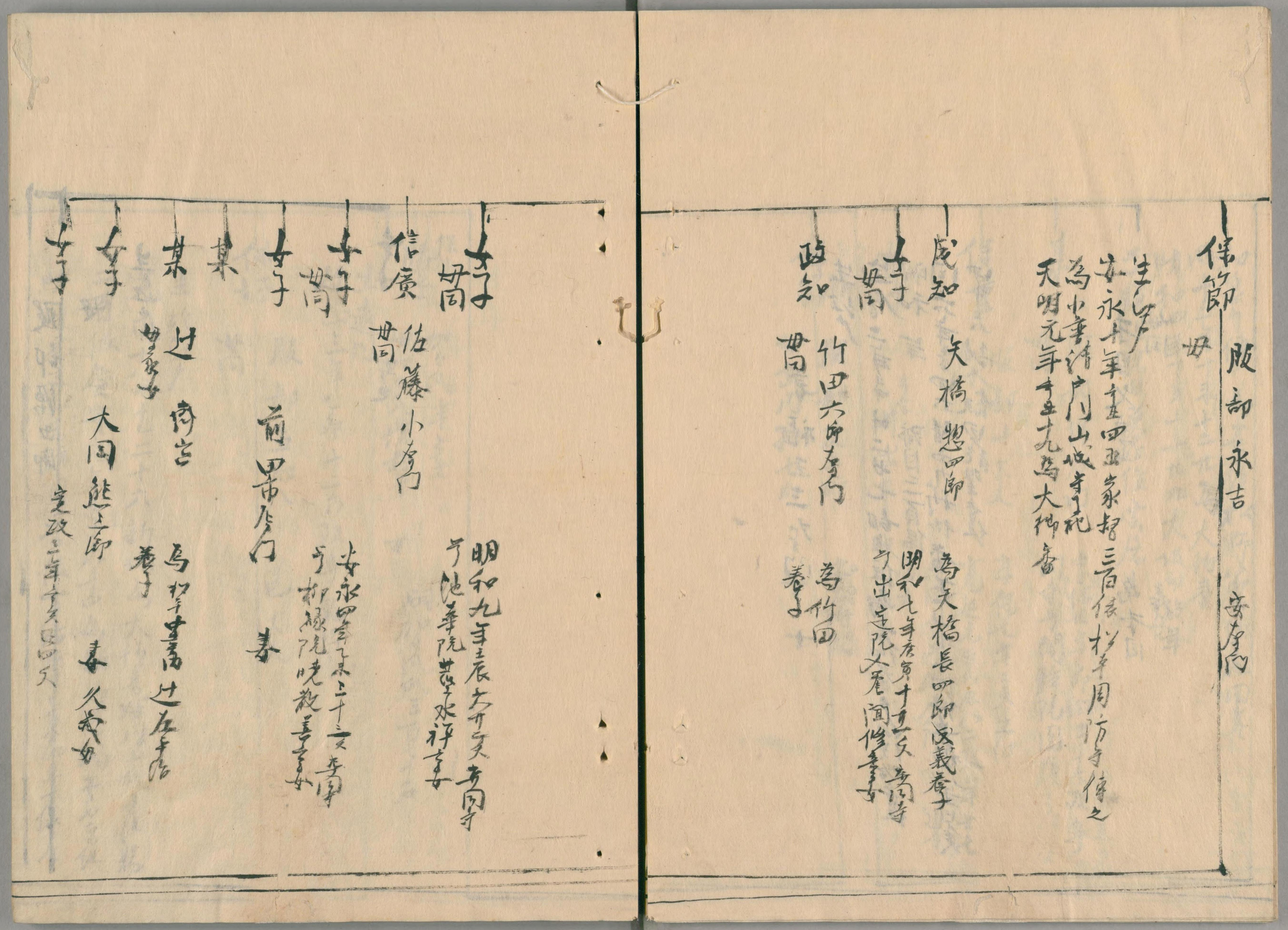
女子 実名 井出半七郎 正相妻
保節 服部友之郎
妻 武川孫七郎

安右衛門

家 福王三左衛門
生没 宝暦二年壬申 十二月廿七部屋住為大御番戸田傳路守組
明和 年 跡目二百俵
同六年己丑四六月 婚西九郎御番芝山小兵衛組安永八年亥
甲午六月飯田能登守組

本目久之丞
妻同

為本目
養子


信節
母
生涯
女永十年立四位家相三百俵杉平周防守信之
為小姓御戸川山城守純
天明元年十五九為大御番
阪部永吉
安房
成知
矢橋想四郎
為矢橋長四郎成義養子
明和七年辰年十月廿六日
于出定院大僧正修善寺
子
母
政知
竹田六郎左衛門
為竹田
養子
子
母
信廣
佐藤小左衛門
母
子
母
子
前田帯刀
養
明和九年壬辰年大御番
于池善院菩提寺
安永四年乙未年二十三歳
于御徒頭
養子
某
某
辻
内宮
為松平豊前
養子
子
大岡能登守
定政二年十六日四人
妻
久姫

母

生江戸

子

保勝

加々氏半之丞

母加々氏備前守

女　嗣加々氏三百七十石

生遠州

延宝三年乙卯十二月廿六日　龍昌寺

服部五郎八　邑大夫

保好

嗣

生於江戸

寛永十八年辛巳二十六新規為大御番皆川山城守組

二百俵慶安元年戊子六月廿日為新御番駒井右京組

明暦元年乙未閏二月廿日二百俵一万治二年己亥加五十俵合

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

賜二百五十俵 寛文九年己酉九十三為御書物奉行
延宝七年己未十二十九加百俵 凡賜三百五十俵
元禄四年辛未十一廿二改年 寿龍昌寺
号梅秀院殿性蒼獨法居士

保照 服部弥大夫 万治三年庚子 廿歳寿龍昌寺
母同 号到蒼秋居士

保近 服部忠四郎 源兵衛
女

生江戸

明暦三年丁酉七十六始 御目見
寛文七年丁未十一廿一 部屋住為大御番大久保
右京亮組 賜二百俵 延寶元年癸丑十三廿六 元禄
御納戸 同七年甲戌十廿六為新御番神尾市左衛門組
同年十二十九加五十俵合賜二百五十俵
元禄四年辛未十二五跡目三百五十俵蒙問而御ゑ戸
列坐 阿部豊後守傳ゝ同五年壬申六十御金奉行
同十年丁丑八十二再改新御番中根平十郎組
正徳元年辛卯七廿二依病辞為小普請
享保四年己亥八二為永井宮内少輔大田忠四郎子孫時
同十七年壬子二廿二改年 寿龍昌寺
号保近院殿合蒼柳音居士

保継　服部源四郎　女

妻大岡作左衛門吉直女
正徳二年壬辰正十二歿

生江戸
宝永六年己丑四六部屋住為大御番阿部志摩守組
二百俵正徳元年辛巳許為小普請後松平右近将監御兵衛
時享保九年甲辰十九人百大番中組備中
寛保二年壬戌十七人於二條城歿年世八
于戒名院重誉了意宗源居士

保穀　服部邑右衛門　女

宝永元年甲申生江戸
寛保二年壬戌十二月廿六日三百五十俵為阿部伯耆守
松平右近将監傳之為小普請
同三年癸亥六月五歿年
于源了院蓮誉宗因居士　寿竜昌寺

保高　服部　女　源兵衛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

妻 青木市郎兵衛 正月廿
天明七年未九ノ廿六日
于信受院殿徳生妙善大姉

生ノ
寛保元年辛酉九 跡目三百五十俵為戸川内蔵助支配
延享元年甲子十二 廿七 為大御番 堀式部大輔組
天明元年辛丑七廿四 為富士見御宝蔵番頭
同六年丙午九廿四 歿年 齢 号 寺
号漸了院殿速入覚道居士

子 母

宝暦八年戊寅九 大廿六歿 寺号
于惠光院月桂妙秋大姉

某 服部
母

宝暦十三年癸未二十一
于御品院春意映月尊子

保嘉 服部安次郎 源兵衛
母

生ノ
天明六年丙午
文化七年庚午五十七 跡目三百五十俵
時田権助支配 時大御番士番
松前嘉 為松前兵吉養子

子 松平嘉三郎 妻
母

保

殷部金之助

貢

生母

生母

文政元年戊寅十二月廿七日三百五十俵

同二年己卯

双

保

殷部小次郎

貢

生母

生母

文政四年辛巳三月廿日三百五十俵為十事

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

手姓

服部

本国伊賀　紋矢筈車

服部日向守宗純
後剃

重長

服部八左衛門

妻　信州開戸兵衛百良女

重明

服部七左衛門

妻　信州人仕信玄林次郎兵衛重秀女

慶長七年壬寅七十歳卒　剃髪
卯小屋也延宝二年甲午九十二歳
年七十四号珊室宗瑚大姉

妻　信州人仕信玄
上原七郎　十七

文禄四年乙未生 上州緑埜郡藤岡邸
元和二年丙辰卒 法名孝仁
合葬公賜三百石 寛永元年甲子 陽 駿河大納言殿為
芦田備組 同九年壬申 上月 法長卿配流時剃髪
同十七年庚辰 十九歳 年四十六 葬市谷久宝山万昌院
号蘭室 遠源寺 号 快翁 会正居士

長次 服部六左衛門 七左衛門
妻 小林次郎兵衛重秀女
生 上州緑埜郡
住 駿河大納言殿 寛永九年壬申 法長卿配流時為後人
後 御赦免 百五十石 内五十俵 御天寺番
承應三年甲午 十一 十六歳 葬 万昌院

号蘭室源秀屋

女子 妻 布下勘兵衛豊春妻
元和四年戊午 八歳 上州緑埜郡
山名邑 正保四年丁亥 十一 十八歳
年三十五 武州多摩郡 金寺薬山
松間寺 蓮室妙光大姉 後改
葬 牛込 万昌院

女子 妻 阿知波五右衛門正勝妻
天和三年癸亥 三十七歳 葬 万昌院
号 昌忠栄久大姉

女子 妻 大井理兵衛 妻 藤

重昌　服部六左衛門

女

妻　早川平四郎定勝女

寛永三年丙寅十月廿四日　号桂山院殿元春昌大禅尼

主殿助

承應三年甲午閏四月廿日　内五十俵後大御番

延宝七年己未四月七日　池田数馬上地御代官加百俵凡賜

二百五十石　貞享二年乙丑七月十二日　肥後肥前豊前

豊後等内七万石御代官

元禄二年己巳十二月八日　辛方昌院

号祥雲院鶴山元端居士

長勝　服部半平　忠直

寛永十八年辛巳生　上野

寛文二年壬寅新恍馬

組賜百俵二口

神田御殿小十人青柳五左衛

某 服部平太郎
女号月平太郎之情女 寛文八年戊申五月五日生
才所同十年庚戌二月六日年三
奪同寺号浮夢

昌賢 服部兵藏 一百助
妻同

生口
元禄四年辛未十二月五日 蔭目 菊間御衆中列坐 阿部
豊後守傳 高木主水正傳 服田 河内守傳之
同十二年己卯 為大御番 寺号浮生 同組同新備中守傳
正徳六年丙申閏二月 為新御番 竹本主水正傳

享保十八年癸丑　告痢病為中書侍
寛延二年己巳二月五歳寿　歳一万昌院
号善学院殿良山昌賢居士

重光　殿部源左衛門

女子　小林弥兵衛　妻　元禄十三年庚辰五月九歳

昌行　殿部百助　六左衛門

女

生母
享保十年乙巳十月五部屋住為大御番山口伊豆守組
賜二百俵
宝暦二年壬申七月二歳寿　寿同寺
号理性院殿節堂元忠居士

教昭　殿部辰次郎

生母
宝暦二年壬申　妻　歳目三月名
同八年戊寅十月五戸田弥十郎子孫時為大御番大岡越前守
組同九年己卯三月九為新御番
明和二年乙酉十月一告痢病為中書侍
同年十月八歳寿四十三　寿　黄昌院
号千松院殿柏岩濃長居士

昌栄　殿部重左衛門

女

天明五年乙巳六月四歳寿同寺
号観光院殿夏月漢天大師

生涯
明和四年十月　跡目三百石内二百石下總州佐倉郡
百石ニ成ル高ニ
寛政元年ニ百　為甲府詰番

平性
服部　本國尾張　故矢筈軍　上藤九

其先
服部和泉
政吉
母服部一郎保忠女
生尾州
仕織田伊勢守信長母方ノ服部為養子

政光
服部與十郎　權大夫
生尾張
仕織田伊勢守信長遠州攻ニ
大神君ニ仕遠州濱松所ニ御出馬供奉尽軍功
天正十九年ニ知賜武州太田庄三百石

政信　服部與十郎　權大夫

天文七年戊申生遠州河左
慶長五年庚子関原役奉爲
台德公信州真田供奉爲御使者同六年辛丑賜武州
内井五百石大坂両度役供奉　夏角乱五七天王寺墨内
而得首級内藤石見守物之以記帳
同年又改光孫目武州太田庄三千石自領合三千五百石
外摂州内千石賜弟李之助政重
元和五年己未　御上洛供奉命遠州今切関所番
寛永二年乙丑賜閑役地　御茶印二百九十石七計凡四千
二百九十石七計　同九年壬申賜　御遺物銀三百枚
同十九年壬午五十七今切所役年六十四

号　釋宗的

兄　服部與十郎　　無子

慶長年中孝仕
台德公爲御花畑御番賜三百俵並加二百石凡五百石
後川淀越前守組時没

弟　服部玄蕃頭　　無子

慶長年中新規奉仕
大猷公爲御小性賜四百俵後替御小性組阿部對馬守組
後同組頭後御徒頭寛永十五年戊寅二月没

号夢者

政久　服部與一郎　新左衛門

妻同

元和八年壬戌好拜

大猷公同年十月部屋係為御推組賜二百俵

寛永九年壬申賜　御遺物金五十両同十年癸酉二七金加

二百石元賜四百石同十九年壬午十二月内四信濃守組

時又跡目二千七百九十石七斗外分知千五百石於弟

與左衛門信成迄次久自領四百石上納

正保二年乙酉五十七歳年　新潟草長敬寺

法名釋宗住

政久無子断絶

信成　服部與左衛門

妻同

寛永十九年壬午十二月賜分知千五百石為小普請

天和二年壬戌五月九隠居元禄五年壬申正月二歳年

葬谷浄光寺号教受院釋宗覚

政重　服部　本工之助

同

天正八年庚辰生遠州河庄

慶長五年庚子始拜

大神君同十九年甲寅右親庄不能供奉難波役

同二十年乙卯　御免賜父改光遺跡内江州長濱賜千石

元和五年己未兄同人今切関所番同年轉長濱而賜

遠州敷知郡千石寛永元年甲子今切而歿年四十五

与宗仙

政次　服部　本工之助

生江戸

元和二年農始拜

白德公同七年辛酉拜

大猷公同九年癸亥為御花畑御番寛永元年甲子歿日

千石直今切関所番

正勝　服部　兵吉　本工之助

貞享元保四即庄内忠重三男

寛永十一年甲戌生江戸

承應三年甲午二廿五為御書院番三枚能登守組

万治元年戊午五七乱心而歿年廿五

女子　折井市左衛門正利妻

服部源左衛門

女 断絶

母安部掃津守

万治元年戊午又死此心故不及遺跡

服部権大夫

男 子

寺大岡備前守重清女

夏子元年甲子七月縁組

天和二年壬戌五月九家督千二百石外三百石分知

権左衛門信親実若門御老中列坐大久保加賀守

小普請

元禄 年 為御小性組

享保十九年甲寅四月六月木綿藍頭組御寄以老練賜金三枚

御老中列坐酒井讃岐守伝奉

元文三年戊午 馬本章清士屋迎助文配

殁

信親　服部權右衛門
　　女同

生江戸
天和二年壬戌五月九日知三百石美濃門而御老中列坐
大番組賀子傳々為十番諸他石因幡守組
元禄四年辛未四三為大御番高木主水正組
宝永元年甲申十　依病辞為小普請　松前伊豆守組
正徳二年壬辰六月十九日為大御番
享保十七年子十一月九日歿年　寿泉寺
号覺照院釋曜順居士

昭政　服部與左衛門
　　女

元禄十年丁丑生江戸
享保十七年子十一月七日歿年　寿泉寺
号傳光院釋日起居士

元文　年　為大御番
同五年庚申十二月二日為西丸御徒　後西丸新御番高田
左衛門組　後享保三年為小普請　八木十三郎宣信四年甲戌十二月歿
明和五年戊子八月八日歿年七十二　寿泉寺
号理明院釋日起居士

信次　服部伊左衛門
　　女

生江戸
宝暦四年甲戌十二月十家督三百石　松平右近將監傳之為

小普請、本十郎助、同五年乙亥三十六歳大御番堀田
若狭守組、同十七年己丑二廿九歳、寛文新御番高井
土佐守組、後辞、為小普請、後異留髪、寺文龍寺
延宝六年戊午四十四致仕、菊岡御老中列坐、松平周防守傳
天明六年丙午十二月廿日
于建長院釋寛利居士　　寿国寺

幸誠　服部幸八郎

妻
妻女

生江戸
延宝六年戊午四十四　家督三百石　松平周防守傳之事

小普請、奥四美力守助
天明四年辰九五歳大御番、京都伊賀守組
三百石、無役、高六十五、上総州夷隅郡二宮

母

養子　幸誠　妻

信隆 安

生年

享保十五庚戌年歳八十九 部屋住為 光御書院番酒井
因幡守組 賜三百俵 元文三年戊午五四歳目 千戸
菊門而御老中列坐 西尾隆政寺傳之

服部権大夫 孫右衛門

信任 服部 吉十郎

寛政藤頼 女利保五男
童女 男

致仕 号観光

服部蔓次郎

母

寛政四年子九十九孫弟四男
子離相院釋成居士

女子

女子

宗施 藤兵衛 妻

木村猪右衛門 妻

女子

女子

濱長五郎左衛門

吉田周悦 妻

信發

服部重之丞

千二百石 上総九美隅郡四色 寺地 天隅郡蔵色内
三十騎 光樹院大野寺 共ノ名 法華寺欽

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

源姓

服部　本國伊賀

家傳曰元藤原閑院左大臣冬嗣之後裔
朝光宗立帝太皇國後未孫

勝重　朝比奈藤左衛門　義勝　朝比奈八郎左衛門
仕今川家　母服部物忠左衛門妹
為服部氏養子仕改源姓
桜田御殿仕奉

宣勝　服部與五郎　久右衛門
生母

櫻田御殿為御御戸賜百三十俵後組頭加七十俵凡賜
二百俵 宝永元年甲申十月移宅為御納戸
寛文 同三年丁亥四月晦日 没年号再哲 小石川無量院葬

次一 服部新蔵 女 母 兵吉門

生母 宝永四年丁亥七月廿日 二百俵

守之 異母弟 伊谷傳兵衛某男 実 櫻田御殿仕奉小十人後書稽奉行御納戸番組頭 宝永元年 文昭公西丸供奉 御納戸御番頭 二百俵

△四年六百五十四年 駿河淳四年嫁

源姓 服部 本国伊賀

保考 服部清助 号我鳥渓

母 某氏女 文保九年甲子十九歴年落髪 号道楓 宗葉作

妻九鬼彦右衛門忠之四女 国子 絲

能運筆書大字 慶安二年己丑九月八日卒 法名

櫻田御殿御賜月俸 同四年辛卯父俱至常地上浦

三方為大文字書 寛文五年乙巳卒 法名 嫁 幕府作事方

宝永元年甲申移宅 生五男三女 宝永二年乙酉十七歴九年

御本丸御為御備者別 五十七歴徳雲寺 号觀禅院 忌日

仙真大姉

正德元年辛卯十二月二條朝鮮御用賜銀十枚

享保十四年己酉十二月廿二日 壽德寺

号空水軒因性院心居士

服部長十郎 藤九郎 号寛齊

保庸

妻九鬼彦右衛門忠之女

妻伊藤

角姜河野

延宝二年甲寅十月五日江戸

元禄以後櫻田御殿而為御儒者賜月俸十石

宝永元年甲申十二月五日移完後移御丸

享保六年辛丑六月廿六日死年四十八 壽德寺

重形

宝永七年庚寅九月廿又 壽同寺

号風露童子

重形

妻伊藤氏

正德元年辛卯廿又 壽同寺

号如覺院彩童子

保龍

服部藤五郎

新五兵衛

妻河野氏女 延享四年丁卯十七日死 壽同寺

号長松院高岩貞操大師

生白戸

享保六年辛丑為祖父保庸之嗣

同十四年己酉十二月五日 月俸三十石 菊間西御光中刻坐

松平左近將盛傳ゝ為小普請 [illegible]

享保十九年甲寅九月　小五郎信道賜書
宝暦十二年壬午　正九三改月俸三石賜米百五俵
於午右京大夫傳く
明和二年乙酉十二四改年　寺岡寺
号陽然院養山玄凱居士
股部熊成
母

股部清助

母

生母
明和三年丙戌十三　源日百五俵為門和
為小普請後水野大膳子孫時
天明五年乙巳六十三改年　寺岡寺
号忠巌院高節祥義居士

保命　股部源八

母九鬼彦右衛門定之女

進賀六年癸丑十二望生母
能運筆元禄年　櫻田御殿而為大文字書賜
月俸三十口　宝永元年甲申　移光
同六年己丑十九六為奥御右筆
正徳四年甲午七十八為御用勘御右筆同六年丙申五十八
為奥御右筆享保四年己亥十八朝鮮人来聘衛
信動之賜時股二同六年辛丑九十六信動御書物調
賜銀五枚
同九年甲辰二十四改年四十七年徳寺
号橋洲　字原泰

妻子　小柴池庵　妻

女子
母

女子
母同

某
母同

女子
母同

女子
母同

正德元年辛卯生天舞同寺

享保九年甲辰二月廿七日舞同寺

享保九年甲辰二月廿六日舞同寺

保吉　服部吉之助
實母柳原富次郎政弼三男

服部弥五郎
實
實母

生没
天明五年乙巳十二月五日
水野出羽守傳之高小姓
享年
水野大膳亮

生江戸
寛政五年
為小普請
文化五年戊辰　没　跡目百五十俵

保　服部摂津守

母　貴母

生江戸
文化五年戊辰十二月五日　跡目百五十俵
為小普請
同十一年辛酉　没

保　服部安二郎

文化十年癸酉十二月　大跡目百五十俵

服部　李國俊　敬矢等事

服部七右衛門重明
二男

長勝　服部修右衛門　半平　志摩衛門

寛永十八年辛巳生

神田御殿後移　中老為元火番

元禄十年丁丑五廿一為小十人朝倉藤十郎組

同年十二廿二物御足合百五十俵

正徳六年丙申四十一告老時賜金十枚為書作

享保十八年癸丑八二歳年九十三　弟半遠方昌院

子自醒院殿心安元恒居士

長篇　服部小源太　新五郎

母

妻　齊

法名

宝永六年正月六部屋住為小十人仕扶子孫全門組賜

百俵十石

享保十九年甲寅正月七歿年　齊万昌院

子快了院殿通称玄春居士

長嶋　服部大兵衛　治方次郎

妻

妻母

正徳六年寅生

妻　戸山武右門四郎女

享保十九年甲寅五三歿年百五十俵菊間帯刀老中列業相

伊豆守傳之為小姓扶平阿波守組

元文元年丙辰五十四為小十人仕新見伯馬嘉

同五年庚申　罪二為　田安御近習番

安永三年甲午四十七歿年五十九齊万昌院

子真相院殿清光淨尼居士

服部　喜

延寶八年庚申六月七移御老部小納戸同年十月加
三百石後叙諸大夫号大膳亮侍采改地方後改老綱為
中奥詩元禄十年丁丑七六隠居同十一年戊寅四九歿年八十三
葬栖岸院号到源院殿前光録侍郎休心道壽大居士

臭直　服部金三郎　庄三郎

女

康熙三年甲午生江戸
部屋住　神田御殿為御小納戸同八年庚申為宗家小納戸
延宝九年辛酉二世一加三百俵
天和三年癸亥為御書院番阿部志摩守組
元禄二年己巳十廿一為桐門御番同二三中奥御番

元禄十年丁丑七六家智土屋相模守傳
正徳二年癸巳十一十二歿年六十等極岸院
号量學院殿恵聞紀考居士

男 服部弥五右衛門 妻 一女子 折井仁左衛門娘

神田御殿為御小性組依病親居
小笠原源四郎 妻 貞享元年甲子七月十五歿

男 服部金十郎 妻

元禄五年壬申十一月始 御目見
宝永二年乙酉九月歿 芳国寺ヶ谷一轉義宝居士

負 保陳 服部金三郎 庄三郎

元禄五年壬申生 江戸
宝永六年己丑 四六部屋住為御書院番織田隠岐守使
正徳二年壬辰十二廿七 沸日九百五十石 苟門御番
列 享保元 但馬守傳 ヶ外分知旅三百石 同弟 辰之助
同四年己未三七 継目御褒賞 銀馬代
後 綽為中書詰 市橋大膳亮
明和四年丁亥 八四致仕 安永二年癸巳 五廿六歿 年八十三
菩提岸院号 興龍院殿雲禮雪腐居士

妻 明和六年己丑十十九歿 菩提寺
号本生院殿顧蓮誓樂大姉

貞

服部金三郎　大膳

女

享保十四年七月生歿

寛延二年庚午十二月　部屋住尚仙小性組横田備中守組

賜三百俵

宝暦十三年癸未七月廿六歿年三十五　寿福院

号天性院殿蓮誉智覚居士

服部八十吉　庄三郎

女

生歿

妻　仙徒五長谷川三十郎勝良女

明和四年丁亥八月廿九日　家督九百石蔵米御老中列坐　部屋住

傳之丞　出奉請市橋人陸奥

集　服部庄三郎

女　服部鉞吉

婚

年十九歿　寿円寺

于冬岳院

生江戸
文化十年癸酉十二月六日歿百五十歳

良俊
御同
生江戸
延享元年甲子十二月廿七歳
為十善寺後為内藤宋女配
御番酒井紀伊守組同十五年庚戌四十二歳
平八郎元文元年丙辰十二月廿八歳
享保九年甲辰十九歳大
新御番高力
妻松崎
生一女
享保十九年甲寅七月廿五歳
延長女
子法華院殿妙正尼大姉
後妻松崎
明和二年乙酉十一月廿七歳
安永四年

服部辰三郎

服部五郎三郎
女
生江戸

元文三年戊午五四弥目三百石菊間御光中列坐所見
陸奥寺傳ゝ為十番結

服部

生ロ

保　服部鈔之助
母

生ロ
文化十年壬申十二月六日三百俵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

平姓
服部　本國伊賀　敏久　管事

保知　服部金之丞

保常　服部金右衛門
母
生戸

保竟　服部永保
女
生戸

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

保好　女　服部善右衛門

生母
御坊主御行水之井信二人扶持
元禄十年丁丑十三歳相問御書賜百五十俵
同十五年壬午　致

保正　女　服部老之助

生母
元禄十五年壬午九廿五歳目百五十俵芳賀高御老中

金左衛門

列坐秩元但馬守傳之為小書詰

保孝　女　服部善太夫

生母

安永二年癸巳正十廿六年
号自性院玄智意庵　　哲陽長寺

女子
嵩

天明元年辛巳八廿七廿六寺陽長寺
号大教院因宝智妙大姉

保貞　　股却金左衛門　始孝五

生母

妻　大伝寺　伊達庄左衛門政孝女

安永二年癸巳閏三五　弥目百五十俵　荷向御老中列坐
為七年清神危若殺　寺七配
天明元年辛丑十十七為小十人　重井年二御組
寛政十二年庚申廿七　黒川與一組時　為三浦和泉寺組
與頭

保寿　股却胡十五
母伊達庄左衛門政孝女　号宝岳院俊山良智居士

生母

妻

享和元年辛酉五廿四　廿六寺陽長寺

文化二年乙丑十二　廿三　廿六寺
号梅巌院芳唐妙香大姉

保

服部熊成　善大夫

貞長谷川左膳藤光　陽書三男

生母

鈴木兵左衛

為養子鈴木兵左衛

母

服部善之助

金左衛門

生母

母

女子

母同

服部百計兵衛

母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

平姓 [illegible]氏

服部 本國伊賀 紋七桁事内切矢倉

服部太左衛門保忠
曾孫

保善 服部八右衛門 生涯

白德公御代被召出後為 禁中方役人場百俵五口
寛文十一年[illegible]九月三歿 奪閣口大象寺
ヲ見樹院主善道往為

其小者日雖 服部小右衛門 八右衛門
保重 妻 生涯

寛文十二年壬子十二月十二日
為小者付賜百五拾俵為表火番後御徒目付
貞享三年丙寅十二月六日致死
弓本覚院貞誉芳相居士　葬大泉寺

女子

保孝　服部市九衛門　八右衛門

妻　保孝　房四男
女　家女

生江戸
貞享四年丁卯七十一歳目付元禄六年癸酉十二月十八日廃
兄保重美濃子
為小者付後目付元禄六年癸酉十二月十八日廃
合歳百俵五人扶持　宝永二年乙酉十月十九日
致寄大泉寺
浄四
院光誉
浄四

女子　萩野小左衛門清貞妻

某　八左衛門

服部専蔵保定祖

某　小八郎

保孝　服部松之助　八右衛門
女

生江戸
宝永二年乙酉十二月十二日目付百俵五人扶持ヲ以屋敷
倩為小者付
享保四年己亥御扶孝行
同九年甲辰六十三致死
弓本覚院清誉泰国居士
葬大泉寺

保　服部
女

享保二年丁酉正十三致死
弓廣寿院順誉国相居士

女子 山田広孝門 長秀妻
女子 長坂源十郎基保妻

保綱 平 服部與吉郎 藤九郎
嫡子 清野興孝門 貞平四男
妻 池田貞阿弥精孝女

宝永三年家主江戸
享保九年戸名九二跡目百俵五人扶持為小普請

同十九年正十三日死年四十三 同寺葬
号直善 妻 保孝女
女子 保平妻 後 保孝四女
女子 姉死而後保平妻

保好 服部造酒之郎
女

享保二十年乙卯生江戸

女子 中嶋源孝文某妻
某 保孝女 女八郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

保定　服部專藏

貫
寛女

生江戸
天明四年辰三月八日　御目見同六年午六月廿日
百俵五人扶持為十書役永井豊物子孫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用